

職リハレポート No.17

研究企画部企画調整室

今号の内容

研究成果活用レポート

職リハレポートでは、障害者職業総合センター研究部門における研究成果の活用事例を随時ご紹介しています。

今号では、岩手の「盛岡広域障害者就業・生活支援センター（社会福祉法人千晶会）」における、「発達障害者就労支援レファレンスブック（課題と対応例）の活用について」と「MSFAS（Makuhari Stress and Fatigue Assessment Sheet：幕張ストレス・疲労アセスメントシート）」の活用について、ご紹介します。

なお、研究企画部企画調整室では、研究成果の活用事例について、随時、募集しておりますので、「〇〇の研究が□□に役立った」「〇〇の研究成果を□□に利用している」「〇〇をこのように活用している」等々、お気軽にお寄せください。

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター研究企画部企画調整室

〒281-0014 千葉市美浜区若葉 3-1-3

Tel：043-297-9067

Fax：043-297-9057

Mail：kikakubu@jeed.or.jp

研究成果物の活用事例のご紹介

—盛岡広域障害者就業・生活支援センター(社会福祉法人千晶会)における 研究成果物の活用事例—

「研究成果は、とても役立っています！」

今回訪問させていただいたのは、盛岡広域障害者就業・生活支援センターです。盛岡駅から徒歩15分弱で、比較的利用しやすい立地条件にあります。母体となる法人は「社会福祉法人千晶会」で、元々は知的障害のある方への支援に取り組まれていた法人とのことでした。

今回は、小野寺主任就業支援ワーカーからお話をお聞かせいただきました。

○ こちらは就業・生活支援センターですが、それぞれのセンターで、いろいろ特徴があるかと思うのですが、特にこういう障害の方が多いといった傾向のようなものはありますか。

小野寺主任：もともと母体の法人が、知的障害がある方の入所施設からスタートしていますので、初期の登録の段階では知的障害の方が割合的には多かったです。ただ、最近はホームページなどを見ていただく方が増えておりまして、精神障害や発達障害の方が、4割くらいを占めるようになってきました。

身体障害のある方も、割合的には少人数ですがいらっしゃいます。ただ、身体障害のある方の場合は、ハローワークで直接求職活動して就職される方も多いものですから…。あとは、難病のある方ですとか、障害者手帳をお持ちでない方ですとか、グレーゾーンといわれている方—診断名はつかないけれども、学校からすればほかの学生と比較して、就職の面でちょっと心配だなという方—などのご相談にも対応しています。

ここの事務所は、相談支援事業と就業・生活支援センター事業に分かれていて、就業・生活支援センターは、所長含め就業支援スタッフ6名、生活支援スタッフ1名で機能しています。

○ 最近は、どこでも精神障害のある方とか発達障害のある方のご利用が多いとおっしゃる所が多いですが、こちらでもそのようになってきているのですね。



盛岡広域障害者就業・生活支援センターは、岩手県福祉総合相談センター2階のMY夢（まいむ）内にあります

小野寺主任：当事者の方に対する相談経路は、普通高校や大学からの依頼のほか、専門学校卒業後に就職して1年くらい経った後で、職場の社長さんなどからご相談があって対応しているケースもあります。

○ 職場の方から、実際に働いてもらったら、ちょっとうまくいかないところがある、といったご相談ですね。

小野寺主任：そうですね。一般で採用したけれど、今回採用した方は、ちょっと様子がこれまでの方とは違うというようなご連絡をいただいて、お会いするといった感じですね。

○ なるほど、そういった状況なのですね。ところで、私どもの研究成果物は、入口の目立つところに置いていただいているようで、ありがとうございます。



入口横の書庫に保管されている研究成果物

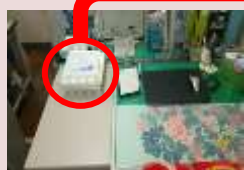
小野寺主任：それは使い勝手を考えてのことです。すぐに使えるところに置いておかないと。

発達障害者就労支援レファレンスブック (課題と対応例) の活用について

職員が手元に置いて、必要なときはすぐ捲って使っています。

○ 就業・生活支援センターあてには、毎年度、成果物ができるたびにお送りしていますが、元々、お送りしたもののなかで、見えそうなものをご活用いただくようになったという感じですか。それとも何か別のきっかけでお知りになってという感じでしょうか。

小野寺主任：障害者職業総合センター主催の研修などの際に「こういう資料がありますよ」と研修講師の方から情報提供いただいて、そんな便利なものがうちにもきているのなら、ということで。古いものはここに置けなくて法人本部の倉庫にありますが、ホームページからダウンロードできるので、各就業支援ワーカーのパソコンの“お気に入り”に登録させて、そこから引っ張るようにしてもらっています。これ（「発達障害者就労支援レファレンスブック（課題と対応例）」）は一般企業での経験が長かった職員にはすごく有効で、そちらの書庫に入っているというよりは、“こんないいものがあるなら、手元に置いて使いたい”ということで、必要なときはすぐ捲って使ってくれています。



デスクに置かれた「発達障害者就労支援
レファレンスブック（課題と対応例）」

○ ありがとうございます。割と最近のものの中では、レファレンスブックを結構使っているのですね。私たちも普及活動ということで、学会や色々な催しの場に出展させていただいて、調査研究報告書やマニュアルのPRをしているのですが、その場でお渡しできるように準備していると、レファレンスブックをお持ちになる方は多いです。

小野寺主任：それこそ各担当者のデスクの引出の中には、1冊ずつ備わっているような状態で、

そこから抜粋して企業への資料として、障害特性についての説明文書をまとめてお渡ししたり、そういうときの参考資料としてすぐ使わせていただいています。

○ ありがとうございます。本当に、よく使っているのですね。

小野寺主任：私もよくやりますが、インターネットでダウンロードできるので、全部ということになると企業も読む負担があるのかなと思って、当てはまるところだけをプリントアウトして、“彼（彼女）の職場での困り感のところは多分こういうところだと思います”とお伝えしたりします。本人にも読んでもらったりして、“こんなの出ているんですね。実はこれ自分にピッタリ当てはまります”ということだと、そこをプリントアウトして企業に情報提供して共有したりもしています。支援方法も書いてあるので、とても役立っています。

MSFAS の活用について

支援者としては、ご本人との関係性を築くのに有効であったり、利用者の方は、ご本人自身が書くことで、自己理解が進むきっかけになったりしています。

○ なるほど。ありがとうございます。事前にお伺いしたお話では、MSFAS（「Makuhari Stress and Fatigue Assessment Sheet」幕張ストレス・疲労アセスメントシート）も使っているということですが、日常的にお使いいただいているのでしょうか。

小野寺主任：平成29年度に就業支援ワーカー3名が入れ替わりになったので、まだそれぞれ使いこなす職員に限られてはいますが…。本人に埋めていただく項目が多いので、本人とある程度関係性を築けてからとか、初期の段階であれば、全部ではなくて必要なところだけインテークの段階で使うとか、そういった活用はしています。

○ お使いになるときは、そのままの形でお使いいただいている感じでしょうか。

小野寺主任：今のところは、こちらで修正したりはしていなくて、いただいたままの形です。まずは記入していただいて、ここについては書きづらいよねということが出てきた場合は、その都度こういう目的で書いてもらうものだ



「MSFASの活用のために」の巻末に
MSFAS第3版の全シートが収められている

からね、という説明をして、最初は抽象的に、いわゆるぼんやりした形でもいいので、ある程度本人に質問の意図をニュアンス的に感じとってもらって、書ける範囲で書いていただくとか。実は実際に書かれた2名の方のシートを準備しておいたのですが…。1名は34歳の女性ですが、クローズ就労の段階で相談に来た方です。就労継続支援事業所に1回移って、そこで続けることができなくて、就労移行支援事業所にもいたんですが、やはりある時期になると体調不良を起こしてしまって、途中で就職する前に通えなくなった状態でした。就労移行支援事業所の支援者によると、とにかく真面目な方なのです。真面目が故に通い続けなければならないというところで、すごくストレスがかかって長期欠席されるということで、今は隣県のご実家に帰省中ですが、帰省する前にMSFASをお渡ししたんです。そうしたら、本当に細かく几帳面に書いてくれたんですよ。（実物を見せてくださりながら）まあこのような内容でしっかり書かれる方なのですが、どうしてもこの部分（対処方法を記入する部分）ですね、こういう症状に対してどのような対処をしているかというところが出てこなくて。彼女の場合は、ここについてのアプローチが必要だなということで、むしろMSFASの中でも支援者用の資料の対処方法を検討するシートを見せて、こういうことを将来的に深めて行ければいいよね、ということでお渡ししているんです。まずはどういう内容になっているかを本人にも確認してもらって、戻って来たら、また一緒に書きながら深めていこうと思っています。実は就労継続支援B型事業所に通うことを希望されているのですが、B型事業所であれば、雇用されずに自分の体調に応じて通うことが可能なので、いくらかでも対処方法を見つけて通い続けるということについて自信を深められたらと思ってですね、そのように本人に投げかけをしている段階の方です。

初期の登録が平成25年の頃ですから時間をかけてようやくここまでできた感じです。最初はお金が無いからクローズでとにかく就職して短期で離職するというのを繰り返して、そんな中で、今の時点では、ここくらい（B型事業所くらい）がいいのかなというふうにご本人が思い始めているのかなということですかね。すごく高学歴の方なので。お医者さんもお本人の意向を尊重されていて、そこを応援していきたいからということも私も共有して、時間がかかってもいいので、とにかく本人に少しでも今の自分の現状からどういう対処が必要なのかというアプローチができればと思っています。ただ、それも実感が伴わないと言葉だけ伝えても入らない方なので、お医者さんからもアドバイスをいただいて、時間をかけてやっていこうということで…。就労移行支援事業所の代表の方から、本当に彼女の真面目なところはアピールポイントだから、後押しして支援してくださいという申し送りを受けて対応しているところです。

○ 本当にきれいな字できちんと書かれていますね。

小野寺主任：もう1名は39歳の男性の方です。（実物を見せてくださりながら）このような内容の方ですが、うちに登録したのが、平成23年11月のことですが、就労継続支援B型事業所を利用していた方です。B型事業所の利用者の中でもすごく就労に関して意欲的で、能力の高い方だと事業所の方からご連絡をいただいて、一般企業に本人がチャレンジしてみたいと言っているの、職場実習からコーディネートしてもらいたいという依頼があった方です。うちの方で2ヶ所ほど職場実習先をご提供して、障害を開示して2ヶ所所で就労した方です。B型事業所を利用していた時は、自分と同じような障害の方々の中で一緒にやって来て、その中で自他ともに認められて一般企業に就職したんですが、一般企業に就職して孤立感を覚えてしまったんですね。彼からのメールや電話の内容の中には、“小野寺さん、この会社で私のほかに障害者って居るんですかね”みたいな話があったので、現状をお伝えしたんですけど、結果的に一般就労先を2ヶ所経験して、“以前のように自分と同じような方々が居るところが自分の希望なんです”、“それが見えたんです”、“MSFASに書き出すことで分かったんです”、ということをお私に言ってきたんです。何ヶ所かの就労継続支援事業の見学から始めて、その中で通院同行もして、実はお医者さん、私が通院同行する以前の段階

で、かなり本人にアプローチしてきたらしいんですよ。ただ、本人はお医者さんから言われることにはあまり納得できてなくて、やはり自分で自分の状況を書き出してみようという中で自覚できたというか、そこがストンと入って。お医者さんからは、実は前から何回も言われていたそうです。私が通院同行した時も“〇〇さん、私前から言ってたでしょう。あなたの場合は福祉的就労のところを順番にステップアップして、最終的には一般オープンでというところを目標にすればいいよと。ちょっと飛び越えてしまったけれど、決して遅くないし、今からでも十分間に合うから、やってみるのもいいんじゃないの”ということで、MSFAS を使って初めて受容ができたんですね。ですから“こういうものが有るなら、もっと早く手当てして欲しかったです”というコメントがありました。実は、記入項目も多いし、非常にプライベートなことも記入することになるので、関係性ができてからと思って、緩めていた部分もあるんです。なので、いつ使ってもらおうかなと思っていたんです。ただ、彼との関係性もこれを使うことによって、いっきにぐっと縮まったりして、言葉のやり取りよりも具体的にご自身が書き込むといった支援ツールの方が、ご紹介した2名に関しては有効だったと思いました。

- なるほど。そういう形でお役に立っているんですね。

小野寺主任：彼は本当に淡泊なので、さらっとしか書いてくれなくて、私が補足で聞き取りながら書いた部分もあるんですが、ご本人自身が書いてる中で気づきがあったということですね。

- ご本人自身が書くことで、自己理解が進むきっかけになったということですね。実際に支援者として使っていただいている中で、ご本人との関係性を作るのに有効であったり、ご本人がご自身のことを理解するのに有効であったりということ以外に何かお気づきになっている点やご感想があればお聞かせいただけますか。

小野寺主任：そうですね…知的障害の方の場合、質問されている項目ごとに、こちらが解説してあげないと書けなかったりすることがありますけど、個々の方々と対応する中で関係性を深める時間を作るためにもいいのかなと解釈しているので、今の形で特に不便さなどは感じていません。ただ、まだまだそんなに利用している件数が多いわけではないので、これからどんどん様々な方に提示するタイミン

グとかも含めて、事例を積み重ねたうえで、今後、ここをこうしていただきたいとか、要望というのは出てくるのかなと思っている段階です。今のところ、私はそんなに不自由さとか不便さというのは感じていないです。

- ありがとうございます。きちんと解説をしていただきながら、お使いいただけるところをお使いいただければいいのかなと思います。少しこれをベースに手を加えられたりしてお使いの所もあるようですが、こちらではいかがですか。

小野寺主任：全国の就業・生活支援センターには、いわゆる支援ツール、アセスメントするための支援ツールを使って職業準備訓練をしているところもあるので、そういうところであれば施設で持っているツールとの相乗効果を狙って、現状の支援状況に合わせて使い勝手のいいものを深められているところもあると思うんですが、いかんせんこの場合は、作業訓練するようなツールなどは持ち合わせていませんから、職業準備訓練とか評価ということになると、同じ市内に障害者職業センターがありますので、我々は相談場面の中で、いただいている資料をフル活用させていただいて、職業評価や職業準備支援が必要であれば障害者職業センターに依頼する形でやっています。

- 障害者職業センターの職業評価や職業準備支援をご利用いただく時に、MSFAS などもお使いいただいて、きちんとご相談を重ねられていると非常に助かると思います。

調査研究報告書・資料シリーズについて

時間がある限り実際に読んで、自分が良いと感じたものは、就業支援ワーカーに勧めています。

ところで、研究の成果については、調査研究報告書や資料シリーズの形でお出ししていて、その研究成果をベースに、それから派生するものとしてマニュアルやツールといったものを作成しているのですが、実際にマニュアルやツールの元になっている調査研究報告書や資料シリーズといったものにも目を通していただいていることはありますか。

小野寺主任：私は時間のある限り実際に読んでいます。読む中で“こういったものもあるんだよ”ということで、実際自分が使ってみて使い勝手のいいものとか使う頻度が多いものに関しては、うちの就業支援ワーカーの業務手

順書の中に、初期のアセスメントの場面ではこれを使ってください。ある程度関係性が構築できたら MSFAS を使ってくださね、というのをフローチャートみたいな形で作っています。ですから職業準備性だったり、職場のルールとかマナーについては、これを使ってくださいとか、全部それこそ職業センターさんからいただいた資料なんですけど、そういったものでアセスメントしたり、相談を深めて次のステップになったらこれを使ってくださね、と職員には言っています。実際に就労先を回っている中で、“企業の担当者の方からこういうご質問が出たんですが、どうしたらいいのでしょうか”という話があったときに、私も対応事例が少なかったり、経験が少ないものに関しては、的確な回答ができないことがあるので、まずはこれ（フローチャート）を確認するようにということで伝え

ています。それ以外のところで、もしイレギュラーな内容が必要なときには言ってもらって、助言とかアドバイスはするんですけど。そういった形で基本的には私が使ってみて、それを業務手順書の中に盛り込んで、それをほかの職員が自分達で使っているという形ですね。

- 業務の流れの中に位置付けて使っていただいている様子がよくわかりました。

本日は大変お忙しいところ、具体的な支援事例のお話も含めて、私どもの研究成果を積極にご活用いただいている様子をお聞かせいただき、ありがとうございました。



『発達障害者就労支援レファレンスブック（課題と対応例）』

- 当機構の研究部門が行った「発達障害者の職業生活上の課題とその対応に関する研究」の結果を基に、地域の就労支援機関において活用いただけるように作成したマニュアルです。
- 当機構の障害者職業総合センターのホームページから、ダウンロードできます。
<http://www.nivr.jeed.go.jp/download/kyouzai/kyouzai48-8.pdf>



『幕張ストレス・疲労アセスメントシート MSFAS の活用のために』

- 当機構の研究部門が、障害のある方々に対する評価・支援技法を開発する過程で、就労支援の場面でストレス・疲労を把握し、対処法を検討するためのツールとして開発したものです。
- 当機構の障害者職業総合センターのホームページから、ダウンロードできます。
<http://www.nivr.jeed.go.jp/download/kyouzai/kyouzai33.pdf>